

林業相談

カイガラムシの防除

問 庭に植えてあるオンコの葉の裏側に、直径が2mm近い円板状のものが沢山ついてます。

害虫でしょうか。名前と防除法を知らせて下さい。

(岩見沢市 K生)

答 多分、スギマルカイガラというカイガラムシです。最近、庭木づくりが盛んになるにつれ庭木の害虫の間合せが沢山くるようになりました。中でもカイガラムシについての質問が多いので、ここではカイガラムシの一般的な防除の仕方についてお答えすることにします。

カイガラムシは森林の中では天敵などにおさえられているため数が少なく、木に害をあたえることは減多にありませんが、庭木とか街路樹では非常によくはん殖し樹液を吸収して木を弱らせたり、またカイガラムシの出す分泌物によってすす病が発生し木を黒くよごしたりします。

カイガラムシの仲間では、その名前のおおりに、カイガラ状の被覆物で体を覆っている種類が沢山あります。このカイガラはロウ質の物質でできているため、農薬をかけても下にいる虫にはとどきませんから、効き目はほとんどありません。このように、数が多いことと、防除がむずかしいということが、カイガラムシを庭木類の一番の害虫にしている原因です。

では防除はどうしたらよいかといいますと、カイガラムシはその一生のうち1回だけ、全く被覆物で保護されていない時期があります。それは卵からかえったばかりの1齢幼虫期で、カイガラムシはこの時期に自由に這いまわり、適当な場所がみつかるそこに定着してカイガラで体を覆い成虫へと生長してゆきます。この孵化したての時に薬剤をかけてやれば、容易に退治できるわけです。薬はスミチオン、ダイアジノン、ジメトエート、スプラサイドなどの乳剤がよいでしょう。

しかし、ここに困ったことがあります。それはカイガラムシがいつ1齢幼虫になるかを前もって知ることが、なかなかむずかしいということです。普通、害虫を防除するときには、まず名前を調べ、それから生活史を調べますが、カイガラムシでは種の特徴がわかりにくいので、カイガラムシの専門家でないと正確な同定は困難ですし、種名がわかったとしても、詳しい生活史が調べられている種はわずかしかなかったりありません。ただ北海道では、6月中に孵化する種類がかなり沢山いますから、生活史がわからなくても、6月はじめから、7～10日おきに3回ほどつつけて薬をまいてやれば、孵化時期にうまくぶつかることが多いと思います。しかし、オンコに多いスギマルカイガラやイヌガヤワタカイガラ(7月はじめに葉の裏側に長さ数mmの白色紐状の卵のうを作るのですぐわかります)は7月に孵化しますから、薬は7月にまかなければなりません。

このような当りはずれをなくす一番よい方法は、少し根気がいりますが、自分で孵化を確かめてから散布する方法です。よく注意しなければ見落してしまいがちですが、白い粉のように小さい1齢幼虫が動いているのを肉眼でも見つけることができます。カイガラムシのついてる枝

を、5月下旬から時どき切ってきて容器に入れ、身近において毎日観察するのがよいでしょう。

ついでですので、これはカイガラムシではありませんが、もっとも問合せ件数の多い五葉松のカサアブラについてふれておきます。このアブラムシはまだ名前がわかっていませんが、五葉松類の小枝から葉にかけて、小さい綿をまぶしたように発生します。体が白いロウ質のもので覆われているため、やはり薬をかけてもなかなか死にませんが、5月にマラソン乳剤(500-1000倍)を10日おきぐらいに3回ほどまけば効果があるといわれています。

(昆虫野兎鼠科 上条一昭)